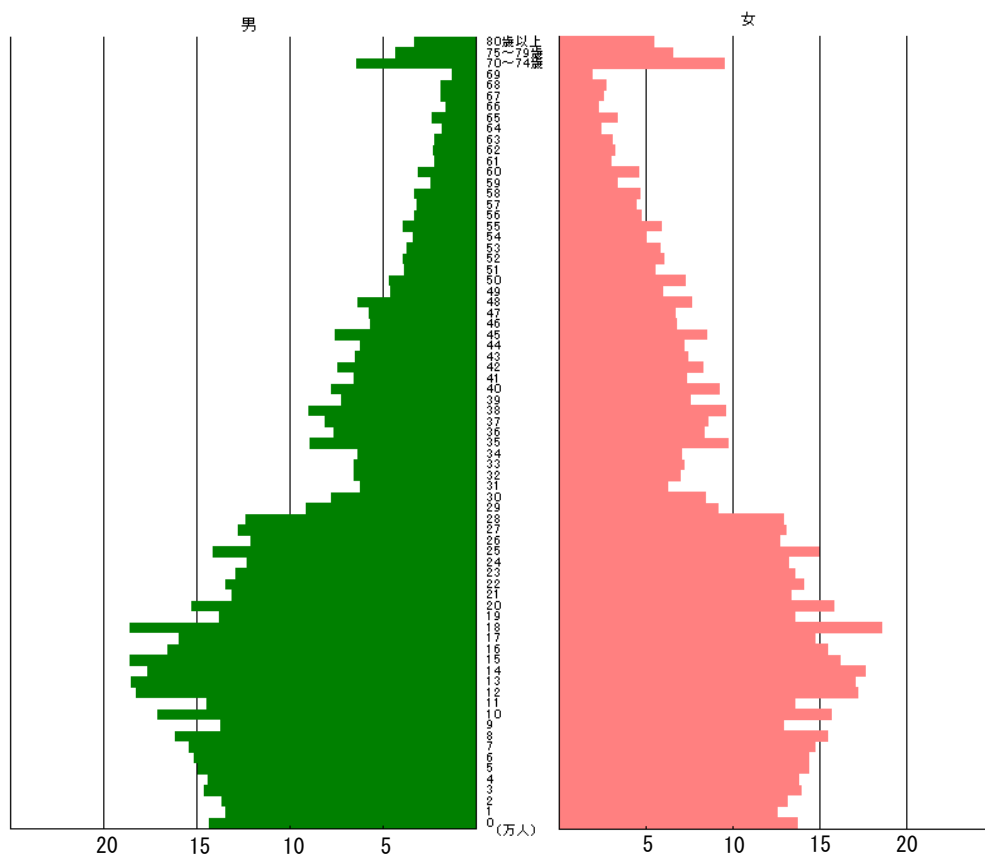


2. 社会状況

(1) 人口

人口は約1,339万人であり、うち男性が約650万人(49%)、女性が約689万人(51%)となっている(2008年人口センサス)。出生率は人口1,000人あたり26.5~29.6人、乳児死亡率(生後1年未満の死亡率)は1,000人あたり76人、平均寿命は男性56.3歳、女性62.2歳(推定値)。ポル・ポト時代の虐殺や内戦の影響で若年者人口の比率が高く、15歳未満の人口が全人口の38.7%となっている。人口は圧倒的に農村人口となっており、国民の8割以上が農村に居住している。都市としては首都プノンペン(約133万人)の他にバタンバン、コンボンソム(シハヌークビル)、コンボンチャム市等の地方都市があるがいずれも人口規模は小さい。乾季には農村人口の一部が職を求めてプノンペンに流入する。

カンボジア人口ピラミッド(2008年)



出典：2008年人口センサス

(2) 民族・言語・宗教

民族的には人口の大半（90%）がクメール人であり、残りは主として中国系、ベトナム系及びチャム系（多くがイスラム教を信仰）とされているが、混血も進んでおり、特に、先祖には中国人移民がいると言う者は全国的に相当多い。特に最近では中国系の進出がめざましく、経済界はもとより政界の中枢でも存在感を示しており、公的祝日ではないものの中国正月も大々的に祝われている。クメール系住民の多くは農業に従事しており、漁業を営む住民の多くは越系・チャム系住民といわれている。

公用語はクメール語。識字率は全体で78.4%（2008年）。

憲法により仏教が国教として定められており、人口の95%が上座部仏教（小乗仏教）である。しかしながら、信仰の自由は憲法で保障されており、少数ながらイスラム教（3%）やキリスト教（2%）も信仰されている。

仏教僧には、飲酒、殺生、女性との接触の禁止などの厳しい戒律がある。伝統的にはお寺が教育の中心であったこともあり、僧侶に対する尊敬の念は深い。雨季が明ける10月頃にはお寺に寄進するための資金を集めるための宴会「カタン」があちこちで開かれる。

(3) 教育

現在のカンボジアの教育制度は、6・3・3制（96年に導入）。独立後は仏による統治時代につくられた6・4・2・1制であったが、ポル・ポト政権下に全ての教育制度が廃止され、その後、教育制度の変更が行われた。

憲法上、義務教育は小中学校の9年間であるが、特に地方に於いては、教育の重要性に対する親の理解の低さ、貧困など様々な理由から、義務教育を全うする生徒は少ない。就学率は、小学校では約94%、中学校では約34%、高等学校では16%となっている。公立校がほとんどであるが、近年では徐々に私立の学校も増えている。学校や教師の数が不足していることから、多くの学校では午前及び午後の二部制をとっている。

現在、カンボジア国内には王立プノンペン大学、国立経営大学、王立法律経済大学など13の国立大学があるが、その多くがプノンペンに集中している。1997年に私立大学の設置が認められてからは、新しい大学が設置されており、シアマリアップ、バタンバンなど一部地方にも設置されている。